



湾岸・アラビア半島地域ニュース

バハレーン：GCC 各国への外国投資の状況

(8月10日付現地各紙)

1. ドバイ商工会議所が最近纏めた報告書の実績によると、バハレーンへの外資による投資額は、バハレーンの海外投資額の倍となっている。更に、1997年から2006年までの総固定資本投資額に占める外資の比率も、GCC 諸国内のトップであることが明らかにされた。
2. カタル、UAE と並んでバハレーンは、外資受け入れの優等生とされ、今後も更なる外資誘致の可能性を秘めている。同報告書は、外資受け入れに関する技術的側面の重要性も指摘している。外国資本による投資は、技術の向上、生産性の効率化を促し、経済成長を刺激する。つまり、先進国から途上国への投資は、技術移転と経営手法の伝達をも伴う。
3. 2003年から2006年までの外資受入額を対外投資額で割った指数では、カタルが5、UAE が4、バハレーンが2で、クウェイトは0.2に止まる。これはカタル、UAE、バハレーンに対する投資が多いことを証明している。この3カ国は、高い投資受け入れの可能性を持ち、実際に多くの外資を受け入れている。逆に、クウェイト、サウジアラビア、オマーンは、高い可能性を持ちながら低い実績に甘んじている。
4. バハレーンは、総固定資本投資額に占める外資比率も31%とGCCでトップである。カタルが26%で、これに次ぎ、UAEは17%となっている。クウェイトは1%以下である。但し、同報告書によれば、2004年以降は、UAEがバハレーン、カタルを上回っており、その地位は安泰ではない。
5. 同報告書は、今後の正確性を期すためにも、GCC 各国政府に投資に関する詳細な記録をデータベースとして残すことを促している。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799